

学年	科目	教科書名	副教材
高1 (総合進学)	地理総合	新地理総合 (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院)	-

### 1. 授業のねらい

地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けます。また、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目し、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を養います。地理総合を通じて、これからの世界や日本を知る未来志向の学習を進めます。

### 2. 授業のすすめ方

基本的に担当者が用意した授業プリント、LoiLo ノート (iPad アプリ)、教科書を中心に授業を展開していきます。また、電子黒板などの ICT 機器を駆使した双方向かつ視覚的な授業を進めていきます。更に、どうしてそうなるのか？どうすれば良いのか？ということ地理的視野で考えるために、適時にグループワークを行う予定です。その中で、適宜課題を与えます。

定期考査だけでなく、授業1時間、1時間が学業成績につながります。授業に参加しているかどうかは大切であり、重視するところです。授業内容は基本事項を理解することなくして、応用力は身につけません。「覚える」ことより「理解する」ことを大切にしましょう。なお、プリントを綴じこむ地理専用のファイル (またはノート) を用意して下さい。 iPad に関しては、授業中に指示があるまではしまっておくこと。

### 3. 学習上の留意点

- ① iPad は忘れないように持参してください (指示があるまで開かない)。
- ② 地理にとって地図帳は必需品です。忘れることのないようにしましょう。
- ③ 常に「なぜ、そうなっているのか？」を考える。
- ④ 資料、統計、地図から推理する。
- ⑤ 常に世界の新しい情勢に注目する。

⇒地理は、単なる暗記科目ではありません。「連想ゲーム」のように関連づけて理解していくことが、知識を定着させるポイントになります。

### 4. 副教材・参考文献

必要に応じて授業の参考となる動画を配信します。定期考査前には練習問題を配信することもあります。

### 5. 評価方法

- ① 定期考査：(100 点満点×5回)

出題内容は授業中に学習したもの、及びそれらの応用問題。考査1週間前までに、範囲を配信します。

- ② 平常点：(1・2学期20点 3学期10点) … 授業における質疑応答や、授業を受ける態度など。

提出物もあります。当然、その内容も成績に関係します。そして何より授業へ積極的に参加しているかを重視します。

- ③ 定期考査、平常点等を基に「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点について学年末に評価します。

### 6. 指導計画

期	月	単元名・学習項目	評価方法	到達目標
---	---	----------	------	------

一 学 期	四月	地図でとらえる現代世界 地図と地理情報システム ・地球上の位置と時差 ・地図の役割と種類 ・地形図の利用 ・統計地図の種類と利用 ・地理情報システム	定期考査・授業態度・課題により評価する。  【中間考査】  【期末考査】	地図の役割や有用性を理解するとともに、位置や分布などに着目して、地図やGISの活用方法について習得する。  多くの国々が連携し・協力し、国際社会を築いていることを確認し、国際社会における国家の役割と、位置や分布などに着目しながら、地域間のさまざまな相互関係について考察する。 世界の人々の生活文化が、自然環境や産業、伝統とどのように関わって形成され変化してきたか考える。
	五月	結び付きを深める現代世界 ・現代世界の国家と領域 ・グローバル化する現代世界		
	六月	国際理解と国際協力 生活文化の多様性と国際理解 ・世界の地形と人々の生活  ・地形図の利用 ・空中写真の利用		
	七月			
二 学 期	九月	・世界の気候と人々の生活 ・世界の言語・宗教と人々の生活 ・歴史的背景と人々の生活 ・世界の産業と人々の生活  地球的課題と国際協力 ・地球環境問題 ・資源・エネルギー問題 ・人口問題 ・食料品問題 ・都市・居住問題	定期考査・授業態度・課題により評価する。  【中間考査】  【期末考査】	世界の気候について地域ごとの違い、とその要因について理解する。また、人々の生活にどのように関わっているか考える。  地球的な課題に対して、他地域との結びつきや地域の特徴などに着目しながら、持続可能な社会をつくるために今後どのような取り組みが必要かを発表する。
	十月			
	十一月			
	十二月			
三 学 期	一月	自然環境と防災 ・日本の自然環境 ・地震・津波と防災  ・火山災害と防災  ・気象災害と防災  ・自然災害への備え	定期考査・授業態度・課題により評価する。  【期末考査】	人間と自然の関わりや地域の特徴に着目して、災害に強い地域作りについて考察する。自然災害に備えた対策を講じることができる。
	二月			
	三月			

※シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により省略や前後することもありうる。